

平成 24 年 6 月 12 日

南の風 IV

南部ミニバスケットボール連盟

会長 藤原 敬一

市大会の女子の試合が10日（日）にありました。残念ながら南部の女子チームは最終日に残ることができませんでした。永田台のベスト8が最高という結果でした。男子にはぜひとも最終日に残って

もらいベスト4以上を目指してもらいたいと思います。**南部全体で応援しましょう！！**

女子の試合の印象を書いてみます。（2会場だったので大正小会場だけとなります。）まず当たり前のことですが、各チームのエース級の選手が順当に活躍していたということです。体の大きさや体の強さがある選手が核となり得点も重ねていました。そして、経験のある準エース級の選手が揃っているチームが勝ち上がりました。やはりバスケットボールは、高さや体の大きさが有利であることは事実だと思います。もう少し詳しくみることにします。オフェンスでは、個人力で攻めるチームが多かったです。ポストでのターンショット、高さを生かしたリバウンドプレー、ドライブインなどです。ディフェンスでは、プレスに出て運びに制限を加えミスを誘うチームや、ゾーンで小さく守りリバウンドからの速攻をねらうチーム、あるいはマンツーマンで1対1を重視して守るチームなど様々でした。ディフェンスは、ベンチの意図がよく見えました。

さてここで今後の課題となりそうなことを書きます。（中学の関東や全国大会、高校のインターハイなどとも関連させて）オフェンスでは、どうやってシュートに結び付けるかです。例えば、速攻というプレーがあります。きれいにノーマークでシュートが決まることなど、かなり力の差がなければ1試合に1回あるかないかです。となると速攻に付随した、アウトナンバーの攻めやトレイルプレーなどが必ず必要になってきます。これは中学や高校のレベルの高いゲームでも同じです。即ち、スペースをどうつくるか、どう攻めるかということが大切になってきます。特にミニバスの場合、コーチが意識しないといけないうことだと考えます。2対1の練習があります。ゲームの前にやっているチームもあります。2対1の練習のねらいは何でしょうか？ 「2対1から1対0をつくること」正解です。しかし、いいディフェンスは中々1対0をつくらせてくれません、ましてやゴール下では。2対1の攻めの失敗の多くは、自らスペース潰してしまい1人のディフェンスに2人が守られてしまうことです。こういう状況をコーチは見過ごしてはいけません。ボールマンはスペース（この場合は距離）をとって、シュート体勢をとる。ディフェンスがチェックにこなればシュートです。ディフェンスが出てくれば、空いた味方にパスです。あるいはドライブで抜いてシュートです。2対1や3対2のキーワードは「**やたらにディフェンスとの距離を詰めるな！！**」です。トレイルプレーでも同じようなことが言えます。速攻崩れの時にミドルマンがウイングパスを捌いた後、止まっていることがあります。基本はインフロントカットです。あるいは、アウェーヘフレアークットです。そして空いたスペースへ4番目のプレイヤーがトレイルカットです。ミドルマンがパスの後カットしなければ、スペースは空きません。スペースがなければよいシュートチャンスをつくることはできません。ミニの時代にぜひ指導したいことの一つです。